

子どもの権利、子ども参加を柱とした子どもセンター「らいつ」の指定管理へ参画したのは、私自身ひとりひとりを大切にする、温かいらいつが大好きで、指定管理によって環境が変わってしまうのがいやだったからです。選定委員となった子どもたちと向き合った時は、私以上にらいつを大切に思っていること、らいつが地域の中で果たしている子どもの拠点としての存在を強く感じました。選定後は「変えないで！」という声に真摯にむきあつてのスタートとなりました。とはいえ、民間運営の新たなスタート。石巻市には児童館はらいつのみ、そもそも子どもの権利を柱とした児童館はらいつが先進的。らいつを作り上げてきた原点でもあるセーブ・ザ・チルドレンの関わりがあることがとても心強かったです。

また、運営の中では、子どもたちの主体性やおり合う力をサポートする職員が、日々子どもたちとの関わりの中で「この関わりでいいのか？」とゆらぎながら活動をしており、さらに職員の良い関わりで子どもたちが声をあげられる環境を作り地域へ届けたいという想いを強く持っていること、日々の関わりを大切にしながらイベントなどの事業を行っていくことの大変さなど、職員の本気さがどわーっと溢れてきます。前期と後期に職員会議にてセーブ・ザ・チルドレン職員のファシリテーションを行いチームビルディング、活動の振り返りをサポートしていただきました。職員としても、子どもの権利に専門的に取り組む団体のサポート、外部からの客観的な助言により安心して日々のモヤモヤを共有することが出来ました。

運営団体としての整備と、館長としての運営管理で悩む場面が多々ありましたが、セーブ・ザ・チルドレン田代さんと初代館長原さんによるスーパーバイズを受け、自分自身が子どもの権利・子ども参加の柱としてそこに在りながら、判断力、発想力をもって運営していく強さを伝えてもらいました。代表や館長ならではの悩みはなかなか相談できる相手はいないため、話す相手がいることで、また考えも整理され、エンパワメントしていただきました。ありがとうございました！

いしのまき子どもセンターコンソーシアム 荒木裕美

(石巻市子どもセンター指定管理者団体 現館長)